

平成26年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 貴志南小学校
校長氏名	犬塚 博志
作成日	平成27年3月3日

1 教育目標

21世紀に生きる望ましい人間像をめざし、一人ひとりの子どもの主体性・創造性を養い、心身ともに健康で、豊かな人間性や社会性のある子どもの育成を目指す。
 ーたくましい子、やさしい子、考える子ー

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域との連携を深め、子どもたちをみんなで見守り、育てる学校 ・地域の人材や産業の活用 ・学校行事等を家庭や地域に積極的に広報 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを理解し、思いやりのある子どもの育成 ・自尊感情の育成 ・規範意識のある子 ・互いに協力する子の育成 ・生命を大切に作る子の育成 ・進んであいさつのできる子の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 「豊かな学力の充実をめざして」～自己表現力を豊かにし、仲間と関わりあいながら伸びていく子どもの姿を求めて～ ・学習の基礎・基本の習得 ・児童の側に立った教育活動の工夫 ・児童の表現活動の育成

取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観への参加啓発 ・懇談会の工夫 ・児童集会への参加啓発 ・育友会行事、子どもセンター事業への参加啓発 ・地域の人材の活用 ・体験活動の重視 ・行事等の広報活動 ・学校開放月間の広報活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・「うちどく」の推進 ・道徳教育・人権教育を中心に学校教育全般で規範意識や自尊感情の育成 ・ペア学年活動 ・生活習慣の確立 ・あいさつの励行 ・体験活動の重視 ・仲間づくり ・QU等アンケート調査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の充実 ・漢字博士検定の実施 ・補習学習 ・「書く」に重点を置いた各教科の指導 ・TT授業を中心にした個に応じた学習の導入 ・小グループ学習の導入 ・体験を通じた学習の重視 ・学習習慣、学習環境の確立
----------	---	--	--

(評価結果【C】) 取組の成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の公開、啓発については、HPは可能な限り更新できた。 ・「夏休み作品展覧会」は地域の方も大勢観賞いただけた。 ・地元の農家の方に指導していただいた野菜作り、米作りは体験を通じた学びを得られた。 ・集会等では多くの保護者の方に参観いただけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつは児童会や先生によるあいさつ運動により活発になった。 ・「いじめアンケート」に加え、必要に応じてのQU調査により、児童の関係性の把握に努めることができ、学校全体の意識も高くなった。 ・「うちどく」は市への申請と育友会の寄付により増冊できたことで、利用回数が圧倒的に増した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・TT授業は2学期より「虹色ルーム」を設けて、個別の指導に切り替えたことは、成果があった。 ・「九九階段」やデジタルサイネージでの学習クイズ等の学習環境づくりは一定の効果が認められた。 ・学生ボランティアによる授業補助、外部の講師を招いての「出前授業」は普段の授業を活性化できた。
--------------------	--	---	--

改善方法【A】 次年度に向けての	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教材・人材を次年度もより活用するために、社会教育の制度の利用を検討したい。 ・参観授業の参加は多い一方、懇談会の参加が少ないので、育友会とも連携しながら手立てを講じたい。 ・育友会と子どもセンターで見守り隊の方に謝意を示す「餅つき大会」などを広めていきたい。 ・HPでは保護者の承諾を得た上で、より子どもの表情や作品がわかるように取り組みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の6年生の「老人ホーム慰問」「障がい者問題学習」などのように、体験を通じた学習をより組み入れていく。 ・今後の教科化を見据え、道徳授業の充実を図ると共に、特別活動・総合的な学習の時間・生活科など体験を通じて、実践力を養う。 ・本年度の5年生と2年生の「昔遊び交流」のように、ペア学年での活動・学習を積極的に取り入れ、異学年交流の機会をより進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・到達度調査等で「書く」力が伸びた成果をふまえ、「聞く」「話す」表現力も伸ばしたい。 ・漢字検定は、今は子どもたちの意欲を引き出せているが、今後頭打ちが予想されるため、学び方の工夫が必要。 ・「わかる授業」は児童も家庭からも評価は上がっているが、100%目指し研修等を通じ授業力を高めたい。 ・今後も、あらゆる子どものために環境や授業のユニバーサルデザイン化を図ることを基本としたい。
------------------	---	---	---

3 その他の課題

・年々、個別の支援を必要とする児童が多くなっている。本年度、年度途中だったが、TT指導から、取り出し授業(通級)を取り入れ、できる限りの対象児童にできる限りの時数を行った。一人あたりはほとんどが1教科だったが、それでも他教科にも意欲が波及するなど成果が見られた。来年度はどれだけの教員を充てられるかは未定だが、大勢の中より個別の指導が望ましい児童のために努力したい。また、関係機関と連携をとりながら、その子にとって最善の環境を提供していきたい。

・開校31年が過ぎ、校舎の老朽化が目立つ。体育館の雨漏り、プールサイド面の補修等、少しずつ修復してもらってはいるが、アンケート結果でも一番低位の施設面の充実については、今後も担当行政に働きかけ続けたい。